

看護 くまもと

— KANGO KUMAMOTO —

May 2023.5
No.125

令和5年度 通常総会 特集号

- ・会長あいさつ 2p
- ・表彰者慶祝・通常総会プログラム・議題 3p
- ・改選候補者名簿 4～5p
- ・令和5年度重点政策・重点事業 6～7p
- ・令和4年度委員会活動報告 8～13p
- ・令和4年度熊本県看護研究発表会報告 14p
- ・熊日就職ガイダンス 15p
- ・事務局だより 16p



日本看護協会キャラクター
「かんごちゃん」熊本県バージョン



LINE
熊本県看護協会公式



manaable
研修システム

トルコ・シリア大地震に対する募金活動への

ご協力ありがとうございました

募金先：日本看護協会（トルコ看護師協会）・日本ユニセフ協会

募金額 1,209,191円

会員数	保健師	444名
	助産師	359名
	看護師	12,563名
	准看護師	1,040名
	計	14,406名

(令和5年5月11日現在 会費納入者数)

会長あいさつ

公益社団法人
熊本県看護協会 会長 **本 尚美**



青葉が香る初夏の風が吹く季節となりました。新年度となり、それぞれの職場では新しい職員の方を迎え、多忙な中にも新鮮な気持ちで日々をお過ごしのことと思います。会員の皆様におかれましては、日頃より看護協会の事業にご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は確認されて3年以上にも及んでいます。5月8日に感染症法上5類へ移行し、社会は日常生活を取り戻しつつありますが、ウイルスが根絶したわけではなく、移行後もそれぞれの現場での対応が行われていることと思います。長期間にわたり、保健・医療・福祉など様々な領域で地域医療を支えていただいている看護職の皆様に改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、令和5年度の熊本県看護協会通常総会は6月17日に開催予定で準備を進めております。令和4年度の事業は、オンラインの併用と感染対策の徹底を行い、皆様方のご協力を得てコロナ禍においても、ほとんどの事業を中止することなく実施できました。日本看護協会と連携した事業で主なものとして、新型コロナウイルス感染症対応研修や離職防止相談事業を実施しました。また、看護職員の処遇改善に向けたキャンペーンとして勉強会も開催しました。看護提供体制を安定的に保つためには、賃金の問題も含めて看護職を魅力ある職業、魅力ある職場環境にしていく必要があります。

今年度の重点政策としては、社会の動向を踏まえ、昨年度に引き続き、①地域包括ケアを支える看護提供体制の構築 ②看護職の働き方改革の推進 ③看護の質向上と人材育成 ④地域における健康危機管理体制の強化 に取り組めます。

在宅領域については、熊本県の補助を受けた新たな訪問看護サポート強化事業として、県看護協会内に訪問看護総合支援センターを設置いたしました。事業内容は、訪問看護の経営支援・人材確保・質の向上を実施してまいります。

また、感染症法及び医療法の改正に伴い、令和6年度からは都道府県知事の求めに応じて派遣される医療チームの仕組みが法制化され、自然災害・感染症支援において新たな仕組みによる災害支援ナースの応援派遣体制となります。これを受け、今年度には日本看護協会から提供される集合教育のプログラムをもとに、新体制の養成研修を開始します。

熊本県看護協会は、今年度も会員の皆様のご意見を伺いながら、一人ひとりがやりがいを持ち、安心して役割を發揮できるよう教育の充実と労働環境の整備に尽力するとともに、県民の健康な生活の実現を目指して、日本看護協会・行政・他団体と連携して活動してまいります。

会員の皆様方には、変わらぬご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

受章おめでとうございます

令和4年度 熊本県医事功労者知事表彰

松崎 眞理子 様
(在宅ケアセンターひまわり 管理者)

宮田 孝子 様
(山鹿温泉リハビリテーション病院 准看護師)



令和5年度通常総会 プログラム

8:40	開 場	
9:20	オリエンテーション	
9:30	開 会	物故会員への黙祷 会長挨拶 熊本県看護協会会長表彰 日本看護協会会長表彰者紹介 来賓祝辞 来賓紹介 祝電披露
10:10	閉 会	
10:15	総会開会	議長団選出 議事録署名人の選出
10:20	議事開始	報告事項 報告事項1 令和4年度 事業報告 報告事項2 令和4年度 理事会報告(書面報告) 報告事項3 令和4年度 支部長会報告(書面報告) 報告事項4 令和4年度 職能委員会報告 報告事項5 令和4年度 委員会報告(常任委員会・特別委員会等)(書面報告) 報告事項6 令和4年度 支部事業報告(書面報告)

	報告事項2	令和5(2023)年度公益社団法人日本看護協会通常総会代議員報告(書面報告)
11:15	審議事項	第1号議案 公益社団法人熊本県看護協会定款の見直しについて 第2号議案 令和4年度決算報告(案)及び監査報告 第3号議案 令和5年度改選役員及び推薦委員の選出並びに令和6年度日本看護協会代議員及び予備代議員の選出 令和5年度選挙管理委員任命
11:45	報告事項	報告事項3 令和5年度重点政策・事業並びに事業計画 報告事項4 令和5年度収支予算
12:20	退任役員紹介 新任役員紹介	
12:30	閉 会	

※進行上の都合により時間等が変更となる場合があります。

通常総会提出議題

第1号議案	公益社団法人熊本県看護協会定款の見直しについて
第2号議案	令和4年度決算報告(案)及び監査報告
第3号議案	令和5年度改選役員及び推薦委員の選出並びに令和6年度日本看護協会代議員及び予備代議員の選出

職能別 交流集会

期日 令和5年6月17日(土)14:00～16:00

場所 保健師職能・助産師職能合同交流集会
熊本県立劇場 地階 演劇リハーサル室
看護師職能Ⅰ・看護師職能Ⅱ合同交流集会
熊本県立劇場 演劇ホール

詳細については
開催通知・チラシ・
ホームページを
ご確認ください



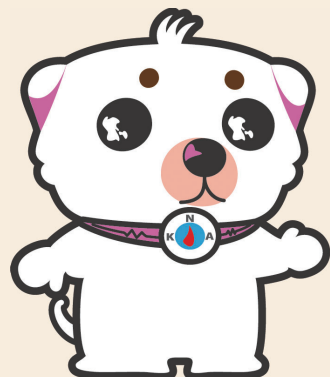
第3号議案 令和5年度改選役員及び推薦委員の選出並びに
令和6年度日本看護協会代議員及び予備代議員の選出

候補者一覧 選挙管理委員会

すべて推薦委員会推薦

令和5年度 改選役員候補者

順位	再/新	役職名	氏名	職能	所属施設	抱負
1	再	副会長	永野 智子	保	熊本県看護協会	4つの重点政策の実現に向けて尽力いたします。特に地域包括ケアを支える看護提供体制の構築については、新たに母子のための地域包括ケアの推進や災害等の健康危機に対応できる看護職の育成に努めたいと思います。
2	新	保健師職能理事	田原 美樹	保	熊本県山鹿保健所	昨年度、新型コロナにより中止していた情報交換や研修を再開し、集まる場の必要性を強く感じました。今後さらに各分野間のネットワークを強化し、各職能とも連携しながら全世代型地域包括ケアシステムを目指します。
3	再	有明・鹿本地区理事	松浦 洋子	看	和水町立病院	地区理事の2期目となります。災害や感染症の課題を抱え、専門職としての活躍が更に求められている昨今、看護協会と地区支部との連携を図り重点政策・重点事業の達成に向け尽力して参ります。
4	新	熊本東地区理事	桑原 美保	助	熊本市民病院	熊本地震・コロナ対応での県看護協会、また会員の皆様のご支援に感謝いたします。微力ながら、地区会員の皆様と連携して県看護協会の重点政策・重点事業の実施に向けて尽力して参ります。
5	再	熊本南地区理事	堺 真由美	看	熊本整形外科病院	南地区理事の2期目となります。熊本県看護協会と地域の方の橋渡しができればと思います。会員委員会でも看護協会の会員増に向けていろいろ検討してきました。組織力向上のためにさらに努めて参ります。
6	新	上益城・宇城地区理事	松岡真由美	看	谷田病院	地域で働く看護師が輝き、やりがいをもって働き続けることができる環境作りの促進や教育環境の充実に向け、微力ながら役割を果たせるように努めて参ります。



令和5年度 推薦委員候補者

氏名	職能	施設名
中山ゆかり	保	熊本県健康福祉部
北原久美子	保	玉名市役所
森田ひろみ	助	福田病院
小柳 博美	看	荒尾市民病院
田中 亮子	看	熊本再春医療センター
前崎 元美	看	熊本総合病院
本田 美樹	看	西日本病院
渡辺 朋子	看	人吉医療センター

令和6年度 日本看護協会代議員・予備代議員候補者

代議員				予備代議員			
順位	氏名	職能	施設名	順位	氏名	職能	施設名
1	熊本県看護協会 永野 智子	保	熊本県看護協会	1	熊本県看護協会 宮下 恵里	看	済生会熊本病院
2	熊本県看護協会 大道 友美	看	熊本県看護協会	2	熊本県看護協会 樋口 友子	看	天草地域医療センター
3	熊本県看護協会 田原 美樹	保	熊本県山鹿保健所	3	熊本県看護協会 大河内彩子	保	熊本大学大学院生命科学研究部
4	熊本県看護協会 赤松 房子	助	熊本赤十字病院	4	熊本県看護協会 田中 聖子	助	水俣市立総合医療センター
5	熊本県看護協会 竹熊 千晶	保	熊本保健科学大学	5	熊本県看護協会 今村かおる	看	熊本大学病院
6	熊本県看護協会 村上 智美	准	西日本病院	6	熊本県看護協会 上田 美香	准	桜十字病院
7	有明・鹿本 長迫 尚美	保	山鹿市役所	7	有明・鹿本 金柿佳奈子	保	山鹿市役所
8	菊池・阿蘇 大川加須美	保	熊本県菊池保健所	8	菊池・阿蘇 田嶋 佳乃	保	熊本県菊池保健所
9	熊本東 岡部 美香	看	九州記念病院	9	熊本東 河野さおり	看	自衛隊熊本病院
10	熊本西 松下 竜太	看	朝日野総合病院	10	熊本西 倉岡美知瑠	看	朝日野総合病院
11		助	慈恵病院	11		助	慈恵病院
12	熊本南 井樋 涼子	看	御幸病院	12	熊本南 岡本つるみ	看	杉村病院
13	上益城・宇城 長木 清美	看	くまもと温石病院	13	上益城・宇城 赤星 紀代	看	矢部広域病院
14	八代・水原・芦北・人吉・球磨 前田 和代	看	八代北部地域医療センター	14	八代・水原・芦北・人吉・球磨 黒澤 昭生	看	桜十字八代リハビリテーション病院
15	天草 橋本 民子	看	天草厚生病院	15	天草 岩崎 留美	看	天草セントラル病院

令和5年度 熊本県看護協会 重点政策・重点事業



重点政策

- I. 地域包括ケアを支える看護提供体制の構築
- II. 看護職の働き方改革の推進
- III. 看護の質向上と人材育成
- IV. 地域における健康危機管理体制の強化

重点政策 I

重点事業1. 地域包括ケア推進に向けて看護の機能の連携強化

- 1) 保健医療福祉の連携強化のためのシステム検討
- 2) 母子のための地域包括ケアの連携強化
- 3) 急性期・回復期・慢性期・外来における看護機能の強化
- 4) 会員増加の推進

重点事業2. 在宅療養を担う看護職の支援

- 1) 訪問看護総合支援センターの開設
- 2) 訪問看護に関する情報収集と関係機関への情報提供
- 3) 在宅療養に係る看護管理者への支援
- 4) 在宅療養に係る人材確保
- 5) 県民への在宅療養に関する周知広報

重点事業3. 地域包括ケアにおける地区・支部との連携強化

- 1) 地区支部機能の強化
- 2) 日本看護協会や保健・医療・福祉関連団体および行政などから発信される情報の共有化
- 3) 地区で開催される関係会議への参加

重点事業4. 地域における健康支援の強化

- 1) 子どもとその家族への支援
- 2) 各支部における「まちの保健室」事業
- 3) 看護の日・看護週間行事の開催
- 4) 医療・保健・福祉等関係団体との連携

重点事業5. 他職種との連携推進

- 1) 他職種と連携した研修会の開催
- 2) 他団体が開催する会議への参画

重点政策 II

重点事業1. 就業継続可能な看護職の働き方への支援

- 1) 看護職の働き方改革の支援事業
- 2) 熊本県医療勤務環境改善支援センターとの連携

重点事業2. 看護職員の就労支援・ナースセンターの活用促進

- 1) 潜在看護職員等の再就業支援事業
- 2) ハローワークとの連携事業
- 3) 看護職不足地域のための看護職確保支援事業
- 4) 看護職員の届け出制度の周知・啓発
- 5) 看護職定着支援のための研修会開催
- 6) セカンドキャリア就労支援事業
- 7) 看護職の離職、需要調査の実施
- 8) 熊日看護師就職支援ガイドランスの広報支援・開催協力

重点事業3. 看護の専門性を発揮するためのタスク・シフト/シェアの推進

- 1) 看護の専門性に資するタスク・シフト/シェア拡大・定着への支援
- 2) 看護補助者との協働の推進

重点政策 III

重点事業1. 生涯学習の支援

- 1) 各領域の看護実践を支える研修の企画運営
- 2) 各委員会研修の開催
- 3) 新人看護職員への支援
- 4) 県からの受託研修
 - (1) 看護臨地実習指導者講習会
 - (2) 新人看護職員研修責任者等研修の実施
 - (3) 看護職員認知症対応力向上研修「マネジメント編」
- 5) 准看護師への支援

重点事業2. 在宅・施設等の看護職の質向上支援

- 1) 訪問看護師の人材育成の強化
- 2) 在宅移行支援推進に向けての研修

重点事業3. 特定行為に係る看護師の研修制度の推進

- 1) 特定行為研修についての情報提供と周知
- 2) 特定行為研修修了看護師の活動支援

重点事業4. 医療・看護の安全対策の推進

- 1) 医療安全管理者の育成並びに連携
- 2) 医療・看護安全対策に関する啓発
- 3) 医療安全に関する情報提供
- 4) 医療事故に係る調査制度に関する支援
- 5) 看護職賠償責任保険加入の推進

重点事業5. 看護に関する調査及び研究の推進

- 1) 熊本県看護研究発表会の開催
- 2) 日本看護協会等からの調査への協力

重点政策 IV

重点事業1. 災害時の看護支援体制の強化

- 1) 災害看護支援体制の整備
- 2) 災害発生時に対応できる看護職確保
- 3) 災害看護の普及
- 4) 地域で開催される災害関連の会議への参画

重点事業2. 新興感染症への看護支援体制の整備

- 1) 新興感染症発生時に対応できる看護職確保
- 2) 感染症に関する研修会の開催
- 3) 感染管理認定看護師交流会の開催
- 4) 地域で開催される感染症関連の会議への参画

保健師職能委員会

委員長 進野よし子
副委員長 大河内彩子
委員 中野 裕美 尾池千賀子 田原 美樹 小原 暁子
古城 薫 濱口 由季 舛井真由美

1. 活動目標

- 「全世代型地域包括ケアシステム推進」をめざし、県内各分野で活動する保健師の活動状況や課題の共有により連携を強化し、地域で働く保健師の視点で保健師の役割や機能を整理し発信する。また、人材育成を支援し組織強化を推進する。(方針)
- 1) 保健師活動の課題共有と連携強化
 - 2) 保健師活動の専門性を確認しあう場の設定
 - 3) 保健師の人材育成支援
 - 4) 会員拡大への取り組み

2. 活動内容

方針1) 保健師活動の課題共有と連携強化 ○保健師ネットワーク会議	8月20日(土) 保健師職能委員7名、各職域団体代表者8名、オプザーバー(日本看護協会保健師職能委員)1名 各分野の保健師の活動状況について共有し、保健師のキャリア育成支援について協議。意見を活かし保健師交流会のテーマを決定した。
方針2) 保健師活動の専門性を確認しあう場の設定 ○保健師ネットワーク交流会	12月17日(土) 保健師会員15名、職能委員9名
方針3) 保健師のキャリア育成支援 (1)統括的保健師研修・交流会	(1)参加者:18名 令和3年度実施の「統括的保健師の活動に関するアンケート調査」結果をもとに統括的保健師の役割について分析
(2)保健師職能交流集会	(2)参加者:88名(看護師、保健師学生含む)
方針4) 会員拡大への取り組み ○活動啓発動画の活用	県協会ホームページに動画を掲載(QRコード付きチラシを作成し配布) 研修会・交流会等で動画を活用し加入促進をはかった

助産師職能委員会

委員長 赤松 房子
副委員長 池田 夕希
委員 馬崎 雅子 小南 由夏 野田 美奈 中森 夕華
坂本 聡子 吉岡 葉子 吉岡 香織

1. 活動目標

- I: 助産師の資質向上のためのアドバンス助産師の申請に向けた人材育成
- 1) 経験の浅い助産師を対象とした研修会の企画・開催をする
 - 2) アドバンス助産師の活動(活躍)の可視化: 交流集会の開催、情報共有・情報提供を行う
- II: 母子のための地域包括ケアの連携強化と拡充
- 1) 地域包括ケアに関わる交流会開催: 情報共有・情報提供を行う
- III: 命の大切さを伝える活動方法の統一と周知
- 1) 性教育出前授業の新教材・マニュアルを活用し評価する
 - 2) 協力員と協働しながら性教育出前授業を実施する

2. 活動内容

1. 助産師の資質向上のためのアドバンス助産師の申請に向けた人材育成 1) 経験の浅い助産師を対象とした研修会の企画・開催をする ①「効果的な授乳のための母児ケア」 ②「産科出血時の対応」 ③「胎児心拍モニターの判読と対応」 2) アドバンス助産師の活動(活躍)の可視化: 交流集会の開催、情報共有・情報提供を行う ①職能別交流集会 ②アドバンス助産師の活動に係る状況調査の結果と課題について周知	1) 5年目までの助産師が研修参加者全体の半数以上を占めており研修会の企画目的は達成。アンケート結果より、いずれの研修も満足度が高かった。ベテラン助産師にも振り返りや学習継続の必要性を感じる機会となっていた。 ①7月10日(日)参加者:40名 ハイブリッド開催 ②9月23日(土)参加者:16名 ③11月12日(土)参加者:32名 2) ①6月25日(土)参加者:25名 アドバンス助産師の活動について、県内外のアドバンス助産師2名から活動の実際について話題提供。その後、意見交換。 ②アドバンス助産師に関する昨年の調査結果を交流集会で発表、交流集会冊子にも掲載し、情報共有を図った。助産師職能主催の研修会開催時には、毎回、アドバンス助産師の活動、申請/更新要件等を説明。情報提供を行った。
II. 母子のための地域包括ケアの連携強化と拡充 1) 地域包括ケアに関わる交流会開催: 情報共有・情報提供を行う 「母子のための地域包括ケアの連携強化・拡充に向けて」	1) 12月10日(土)参加者:45名 ハイブリッド開催 5人の演者からの話題提供後にグループワークを実施。「私たちにできること、すべきこと」をテーマに意見交換し課題と今後の対策について確認し合った。
III. 命の大切さを伝える活動方法の統一と周知 1) 性教育出前授業の新教材・マニュアルを活用し評価する ①新教材を活用し評価・修正を実施する ②出前授業の担当者マニュアルを作成し活用する 2) 協力員と協働しながら性教育出前授業を実施する	1) 新教材とマニュアルが5月に完成。活用の結果、初めて出前授業を担当する場合でも滞りなく打合せや準備ができ効果的であった。授業一覧から先方の要望に応じて取捨選択をして授業内容の調整ができ、作成したマニュアルの有効性が確認できた。また、DVDのメッセージ動画など養護教諭からも好評価をいただくことができた。 2) COVID-19の感染状況に応じて対面授業やリモート授業を行った。20校25回を委員と協力員と協働して実施した。

看護師職能委員会 I

委員長 今村 かおる
副委員長 山田 里香
委員 遠山真智子 久保 公子 山本 美子 木庭 薫 田上 真美
木下 仁美 續 小百合 松下美佐子 上田 美香

1. 活動目標

- 1) 准看護師への支援
- 2) 看護師長への支援、教育への取り組み
- 3) 看護職のタスク・シフト/シェア、働き方改革の検討

2. 活動内容

1. 准看護師への支援 ○准看護師交流会 ・研修会「問題行動のある認知症看護」 ・体験発表	9月3日(土)参加者:3名 ・例年准看護師交流会は土曜日に開催しているが、小規模施設やクリニックなどは土曜日でも外来診療を実施しているところも多いため、次年度以降は准看護師の方々に参加しやすいように日曜日の開催を検討する方針となった。
2. 看護師長への支援、教育への取り組み ○研修会「現任教育を支える看護師長への支援」	10月15日(土)参加者:30名 ハイブリッド開催 ・今後も看護基礎教育カリキュラムの変更に伴い、臨地実習が減少する中、現任教育は変化を求められるため、本年度の講師の招聘を継続し、研修内容を吟味して計画していく。
3. 看護職のタスク・シフト/シェア、働き方改革の検討 職能別交流集会を使用しての情報収集 看護職のタスクをシフト/シェアする職種への教育 看護職のタスクをシフト/シェアする職種ラダーの開発 ○職能別交流集会 県立劇場演劇ホール 基調講演・シンポジウム	6月25日(土)参加者:172名 ・看護のタスクをシフト/シェアする職種の人材確保は処遇面も含めて喫緊の課題であることが分かった。 ・職能委員が所属している施設の現状等から「看護師の専門性に資する」タスクとは何かを議論したが、タスク・シフト/シェアに関するガイドラインの普及および活用が未だ進んでいないことが明らかだった。 ・タスク・シフト/シェアを推進するには、ガイドラインにも出てくる「意識」、「技術」、「余力」という3要素のうちの「意識」化から進める必要があり、全看護職に向けた研修等による教育の必要性が明らかとなった。

看護師職能委員会 II

委員長 竹熊 千晶
副委員長 片山 裕美
委員 神 美智子 國田 琴美 谷口 絹代 蓑田 純子 吉川 秀吾
山下 直美 高永 京子

1. 活動目標

- 1) 地域包括ケアシステム推進に向けて看護師職能IIの役割発揮を目指す
- 2) 看護師職能II領域の看護職が連携し、新しい生活様式に対応し働き続けられる環境を作る
- 3) 在宅・施設等で働く看護職の看護実践能力の向上を目指す
- 4) 災害時における看護師職能IIの看護支援体制の強化を目指す

2. 活動内容

1) 地域包括ケアシステム推進に向けて看護師職能IIの役割発揮を目指す ①在宅療養を担う看護職と多職種との連携を強化する 看護師職能II交流集会	7月16日(土)参加者:29名 オンライン開催 テーマを「医療と介護の一体的提供における介護職との協働～相互理解から始まるIPW～」とし、病院連携室等にも参加を促し看護師職能Iとの連携を図った
2) 看護師職能II領域の看護職が連携し、新しい生活様式に対応し働き続けられる環境を作る ①オンラインによる会議・研修方法の検討と充実 ②介護関連施設実態調査から看護師職能II領域で働く看護職が働く環境の課題抽出とヒアリングに協力する	委員会定例会 10回開催 コロナ禍により、1～2名の欠席はあるものの、ラインにて情報共有し、研修会打ち合わせや課題を共有した。
3) 在宅・施設等で働く看護職の看護実践能力の向上を目指す ①「暮らしの場」における看護実践能力の向上に関する研修会	11月22日(日) 参加者:17名(オンライン7名) テーマ「すぐに役立つ!暮らしの場で働く看護職の実践能力の向上～認知症高齢者のケアの実際《食べること》～」 参加者のほとんどが「今後活かせる」と回答
4) 災害時における看護師職能IIの看護支援体制の強化を目指す ①BCPとは何かを理解し、自施設におけるBCPを策定することができる。 ②災害や感染症に関する看護職の役割について事例から学ぶ	看護師職能II交流集会 6月25日(土) 参加者:30名 テーマ「新型コロナウイルス感染症経験からみえてきた事業理念の継続」 基調講演と話題提供 参加者のBCP策定の状況や課題もわかり有意義であった。

社会経済福祉委員会

担当理事 松浦 洋子
 委員長 異島 祐子
 副委員長 天野 佳代
 委員 横山 佳史 西米 純次
 前田 尊明 池崎富美子 中村 絵美 山田 明美

1. 活動目標

- 目標：看護職の働き方改革の推進
- 1) 健康で働き続けられる環境づくり支援
 - 2) 看護職員の就労支援・ナースセンターの活用促進
 - 3) 看護の専門性を発揮するためのタスク・シフト/シェアの推進

2. 活動内容

1) 健康で働き続けられる環境づくり支援 (1)研修会「就業可能な働き方への提案」 テーマ：健康で働き続けられる環境づくりの支援 研修内容：2交代制の夜勤への取り組み事例の紹介 2交代制の夜勤では16時間が多い現状があり、夜勤ガイドラインを参考に改善すべき時期にある。時間短縮への取り組み、医療機関の対策事例を共有し、夜勤時間の見直しに活かす。	開催日：9月16日(金) 13:30～16:00 参加人数：26名 研修形態：オンライン修 講師：山都町包括医療センターそよう病院 看護部長 黒木あけみ氏 一般財団法人杏仁会 江南病院 副看護部長 前田尊明氏 公益社団法人日本看護協会 労働政策部看護労働課 小村由香氏
(2)①医療勤務環境改善支援センターのセンター長よりセンターの設置背景や活動内容などについて説明を依頼し委員会と勤改センターの顔の見える連携を目指す ②医療勤務環境改善センター主催の研修会への参加	10月より委員会に、医療勤務環境改善支援センターから2名の医療勤務管理アドバイザー(看護師)が加わり、随時情報提供や助言を行っている
2) 看護職員の就労支援・ナースセンターの活用促進 (1)研修会「コロナ禍における看護職のストレスマネジメント」 テーマ：WITHコロナ社会を生きる為に自律神経について知ろう ねらい：看護職が抱えている強い緊張や不安・悩みに対してどの様に対処すればよいのか講義を通して学び、日常生活の中で自らを評価し、ストレスを自己コントロールできるようにする。	開催日時：令和5年1月20日(金) 13:30～16:00 参加人数：47名+10名(委員) 研修形態：オンライン研修 講師：熊本大学大学院生命科学研究部 教授 大林光念氏
3) 看護の専門性を発揮するためのタスク・シフト/シェアの推進 各施設課題の提出・協議	結果：各施設からの課題を持ちより協議を重ねたが、具体的な活動にまでに至らず、次年度の課題とする。

教育委員会

委員長 木崎 智代
 副委員長 島野 彩香
 委員 松村 直 生魚 由紀 緒方 恵 馬場 幸子 嶋田枝里子
 松本 智晴 堀川 利枝 上村 美穂 宮本ゆかり 大塚 美加
 廣瀬真理子 早稲田 香 濱田 久子

1. 活動目標

1. コロナ禍における令和4年度一般研修の円滑な運営と評価
2. 令和5年度の一般研修の企画

2. 活動内容

1. 令和4年度一般研修の運営と評価 1) 研修会で司会と書記を務める 2) 講師と打ち合わせて演習などを支援する 3) 参加者の状況や研修会の内容などを含む報告書を作成する 4) 評価のために参加者に対してアンケートを実施する 5) 研修会終了後は直近の定例委員会で評価する 6) 教育事業実践報告書に集録する	研修会運営は、旧委員と新委員の組み合わせで開催することで、新委員への教育も含めスムーズに運営出来た。感染状況を鑑みながら、オンライン研修への変更を行った。研修会開催によるクラスターの発生はなく、感染防止対策の効果が表れている。研修申込システムの導入に伴い利便性は向上したが、適切な運用においては課題もあるため、今後も引き続き各施設に対して働きかけを行っていく必要がある。
2. 令和5年度の一般研修の企画 1) 保健医療福祉の動向をふまえて立案する 2) 令和3度の研修会参加者の要望を参考とする 3) クリニカルリーダーの学習段階に応じたねらいや内容とする 4) COVID-19の拡大状況に応じて開催できる研修方法を企画 5) 継続教育の推進となる研修会を企画する	令和5年度の一般研修企画について討議した。6月の定例会で他県の教育計画を参考に、これまでの研修のあり方、今後の方向性等について討議した。
3. 定例会の開催	毎月第2金曜日に開催
4. 教育委員のための研修会 1) 新任教育委員への研修 2) オンライン研修運営のための研修会	1) 6月新委員5名に対して教育計画についての研修を実施 2) 定例会において、各研修会での評価をもとにオンライン開催に関する手順、注意事項について討議。より良いオンライン研修会の開催を目指し研修会の度に手順の改善に努めた。
5. 熊本県看護研究発表会の運営 1) 協会担当者と協力し運営に携わる	2023年2月25日(土) 熊本城ホールシビックホール 参加者：一般参加会員114名・理事9名・学生2名・協力委員(教育15名)・事務局13名 3年ぶりの外部会場での対面開催。

広報委員会

担当理事 猪本 伸子
 委員長 市原 和美
 副委員長 國本 珠美
 委員 跡上 知美 坂田 涼子 高内 里香 吉竹 卓也 安荘 笑子
 達見 香織

1. 活動目標

看護協会や各委員会、支部活動等の取り組みを、社会情勢も含めた観点で会員に広く情報提供し、看護の質向上、キャリア支援の推進につなげる。

2. 活動内容

1) 看護くまもとの発行 4回/年 8月：122号、11月：123号、1月：124号(5月/121号は事務局発行) (内容) ・各委員会の活動紹介 ・支部共催研修報告の掲載 ・看護協会に関する情報提供 ・看護協会の重点事業に沿った取り組みの紹介	・年4回の発行ができた。地域包括ケアシステムについてシリーズ化し、3回の連載企画で掲載した。 ・123号へ特定行為研修修了者2施設2名の活動報告を掲載した。研修終了後の活動の実際を知る機会となり、特定行為研修を受講希望する方への情報提供につながったと考える。 ・アドバンス助産師についての紹介/新型コロナウイルスに関する情報/地区別看護管理者会・看護基礎教育を考える会の開催報告など重点事業に沿った取り組みを掲載できた。 ・看護協会LINEとマナブル(研修システム)会員登録のQRコードを周知するため号表紙に掲載。
2) 新・非会員向けのチラシの発行 1回/年 非会員及び一般向けに看護協会の取り組みを紹介するもの(A4サイズ1枚程度) (内容) ・各委員会の活動内容も含めて検討する。	・会員委員会と合同で話し合いを行った。 ・会員委員会が既存のリーフレットを見直し作成を行うとのことで、活用について協力していきたい。 ・広報委員としては小施設への働きかけとして、看護協会のホームページへ誘導できるものを掲載検討中であり、次年度も検討を重ねる。

準備委員会

担当理事 村上 智美
 委員長 執行 直美
 副委員長 宮達いずみ
 委員 渡邊多恵子 富永 賢子 白井真海子 松下 竜太 江口 慶子
 横田 円 村山 由香 大友はるみ 緒方 優子 本多今日子

1. 活動目標

1. コロナ禍における令和4年度研修の円滑な運営

2. 活動内容

1. 令和4年度一般研修の運営 1) 感染防止対策をふまえた研修の準備・後片付けがスムーズにできる 2) オンライン研修を教育委員と協力して運営する 3) 研修申込サイトを使用した受講受付のサポート 4) 感染状況に応じて準備委員の研修担当者を調整する	・研修会の前後の準備・後片付けは、熊本県看護協会の感染拡大防止策を実施しながらスムーズに行うことができていた。研修会開催によるクラスターの発生はなかった。 ・COVID-19感染拡大のため、オンライン開催となった研修会が多かったが、教育委員とも協力しながら、受講者のZoom入退出のサポートを行った。 ・マナブルを使用している受講受付のサポートとして、委員での役割分担を行い、受講生へ声掛けなどを行った。 ・当日の研修担当者が不在になることなく、急な予定変更の対応ができた。 ・オンライン研修の入室前に、氏名・施設名の入力変更時に時間を要した。 ・準備委員1年目と2年目でペアを組むことで、スムーズに進めることができた。 ・マナブルの入室の方法が分からない受講者が多かったため、もう少し簡単にできるシステムだと良かった。 ・準備委員グループラインを活用することで、担当者の変更をスムーズに行うことができた。
--	--

会員委員会

担当理事 堺 真由美
 委員長 岩根 舞
 副委員長 倉岡美知瑠
 委員 松田 恵 中村 徳子 下田 香織 村岡 奈緒 村本 美雪
 奥村 和美

1. 活動目標

看護協会活動の意義を理解してもらい看護協会会員の増加を目指す(50%以上を目指す)

- 1) 看護管理者会でのPR活動を行う
- 2) 看護学校へのPR活動の継続
- 3) 領域別にPR活動を考える
- 4) PR方法の検討

2. 活動内容

1. 看護管理者会において、会員獲得のためのPR活動を実施する。 以下の内容を見える化し、入会促進の計画を立てる。 ・各支部の現状と目標 ・医療機関や施設の医療従事者数と入会者数をデータ化	・スライドを見直し、看護管理者会におけるPR活動を看護協会役員が各地区で実施した。 ・看護協会入会者ゼロの施設をピックアップし、20施設の看護管理者へ電話連絡、内10施設への入会リーフレットの郵送の承諾と地区別看護管理者会への参加を依頼した。今後リーフレット郵送後の新規入会結果を調査する。
---	--

2. 看護学校へのPR活動	看護学校への看護協会案内パンフレット郵送(24の看護学校:全1380部)を1月に郵送した。
3. 領域を絞ったPR活動 ・看護師職能Ⅱ領域へのPR 在宅・施設領域に対するPR活動 ・保健師職能委員会へのPR活動 ・非会員へのアンケート調査を実施し、声を聴く	・看護師職能Ⅱの方へのPR活動方法の検討 ・保健師職能委員会とのPR活動に関しては、保健師職能でPR動画作成されているため、合同での活動は実施しなかった。 ・2022年9月～12月21日のアンケート配布数121名、回収18名、回収率14% (アンケートの詳細は総会要綱事業報告を参照)
4. PR方法の検討 ・HPやLINEを活用した会員委員会からの情報発信について再検討する。	広報委員会と合同でPR活動の検討を行い、看護協会入会のメリットに関する情報提供を行った。(10月19日)

看護制度委員会

担当理事 木村 恵美
委員長 田崎留美子
副委員長 藤崎 資子
委員 田中 智子 竹下 真登 松原 愛美 江嶋祐希子

1. 活動目標

看護職を目指す人材を確保するため、看護教育制度や看護の魅力等、看護に関する情報を発信する。

- 1) 看護職に関する情報の提供
 - ・高校を中心に進路選択となる出前授業の展開とともに小・中学校を対象に看護の魅力を発信する
 - ・社会人向けの説明会について検討し、社会人入学者の志望者数の増加を図る
- 2) 高校の進路指導担当者を対象に看護教育制度説明会開催
- 3) 看護職人材確保に関するイベントへの参加

2. 活動内容

1) 看護職に関する情報の提供 ①出前授業の実施	高校11校、中学校2校で実施 対面、オンライン下ともに満足度は高かった。事前打ち合わせを入念に行い学校や生徒からの質問・疑問を確認し、学校の担当者・支部協力員と情報共有することで、満足度の高い出前授業を行うことができたと考えた。
②社会人向け説明会開催への取り組み 案内パンフレットの作成 パンフレットの配布先の検討	日本看護学校協議会のリーフレットを参考にパンフレットを検討したが、作成には至らなかった。 次年度は社会人入学者から看護学校入学の経緯について情報収集をした上で取り組んでいく。
③支部協力委員への出前授業説明会開催	9月27日(火) ハイブリッド開催 参加者:16名(会場 8名 Web 8名)
2) 高校の進路指導担当者を対象に看護教育制度説明会開催	6月21日(火) ハイブリッド開催 参加者:18校、21名 2回開催を予定していたが、コロナ禍でハイブリッドの1回のみ開催となった。
3) 看護職人材確保に関するイベントへの参加 ①「高校生の一日看護体験、一日看護学生体験」参加者へ看護制度等の情報提供 開催期間:7月末～8月初旬 ・制度委員、支部協力員の所属する施設	コロナ禍で看護制度委員が所属する施設では高校生の1日看護体験は行われなかったため、情報提供をする機会はなかった。

医療看護安全対策委員会

担当理事 石田由紀子
委員長 潮崎 伸子
副委員長 米川 尚子
委員 藤岡 聡子 鳥飼 愛美 松森 智香 中村 知美 高瀬 正樹 原田 康恵

1. 活動目標

1. 医療安全に関する教育と安全におけるチーム医療の推進を図る
2. 医療安全管理者の育成支援とネットワークづくりの推進を図る

2. 活動内容

1) 医療安全に関する教育と安全の推進 ①『医療安全の基礎研修』	6月3日(金) 13:30～16:30 目的:医療安全に関する基本的知識と態度を習得する 内容:講義・グループワーク「危険予知トレーニング」 講義:「医療安全の基礎」 医療看護安全対策委員会 米川委員 グループワーク:「危険予知トレーニング」 医療看護安全対策委員会 松森委員
②『医療安全事例分析研修』	10月22日(土)、23日(日) 目的:事例要因分析の専門的知識と技術を学び、その手法に基づいて事例要因分析が実施出来る 講師:自治医科大学医療安全学教授 河野龍太郎氏

③『医療安全推進週間講演会』 内容:摂食嚥下について『正しく知ろう!誤嚥しない食べ方・食べさせ方!』	11月13日(日) 熊本パレオホール 目的:患者参加型の医療安全を目指し、「患者・市民と共に考える医療安全」をテーマとして学ぶ。
2) 医療安全に関するチーム医療の推進 ①『チームステップス研修』	7月23日(土)、24日(日) 目的:チームステップスとは何かについて理解し、演習を通してチームステップスの実際を学ぶ 講師:近畿大学病院 辰巳陽一氏
3) 医療安全管理者の育成支援 ①『医療安全管理者養成研修』	10月1日(土) 集合研修演習支援 目的:医療安全管理者人材養成 講師:熊本大学 近本亮氏
4) 医療安全管理者のネットワーク作りの推進 ①『医療安全管理者交流』	9月2日(金) 目的:医療安全管理者間の情報共有を図り、ネットワークの基盤を作る テーマ:「ダブルチェックについて～施設における工夫～」 講師:医療看護安全対策委員会 藤岡委員

災害看護対策委員会

担当理事 村上 元子
委員長 須崎 了子
副委員長 白鷹 雅美
委員 松崎とよ子 尾方 千恵 園田 弘美 中村 大地 竹下 美子 山隈 和子

1. 活動目標

- I 災害支援体制の整備
- II 災害支援ナースの育成
- III 災害看護の普及

2. 活動内容

I 災害支援体制の整備 1. 災害看護支援に関する情報の提供 ・災害看護支援要綱の見直し ・ホームページの活用 ・災害時の事業継続マネジメント(BCM)・計画(BCP)の見直し及び広報 2. 支援用備品の点検と整備	I 災害支援体制の整備 1. 災害看護支援に関する情報提供 ・災害看護支援要綱及びホームページの見直しについては、担当を割り当て現在修正中である。 ・災害支援ナース募集に関するポスター作製のため、県協会に企画書を提出。県協会と検討中である。よって次年度発送とし、継続的に取り組む。 ・協会HPをアナウンスする 2. 支援用備品の点検と整備 ・3月に実施
II 災害支援ナースの育成 1. 災害看護に関する基礎教育の普及 1) 育成研修 I 6/20.21、7/5、6 ・JNA収録DVD研修「災害支援ナースの第一歩」 2) 育成研修 II 10/14、10/28 ・災害支援ナースの役割・活動の実際 講師:災害看護対策委員 2. 県全域に亘る災害支援ナースの養成 1) WEB開催を推進 3. 災害支援ナースの登録・更新の啓発、推進 4. 災害支援ナースの質向上のためのフォローアップ研修 ・フォローアップ I・IIの開催 1) フォローアップ研修 I 11/11 ・「災害時における栄養士の役割と災害チームとの役割」 ・「災害時における歯科支援活動と災害チームとの連携」 講師:熊本県栄養士会 石松由紀子氏 講師:熊本県歯科医師会 牛島隆氏 2) フォローアップ研修 II R5.1/27 ・「防災気象情報の利用の仕方」[熊本地震の特徴] 講師:熊本地方気象予報官 小林秀樹氏 講師:熊本地方気象南海トラフ地震防災官 田中宏樹氏 ・DIG研修 講師:災害看護対策委員	II 災害支援ナースの育成 1. 災害看護に関する基礎教育の普及 1) 育成研修 I 2回開催(主催:日看協) JNA収録DVD研修「災害支援ナースの第一歩」 1回目:6/20・21 参加者:64名 2回目:7/5・6 参加者:43名 2) 育成研修 II 2回開催(講師:災害看護対策委員) 1回目:10/14 参加者:57名(ハイブリッド) 2回目:10/28 参加者:40名(ハイブリッド) 内容:災害支援ナースの役割と活動の実際 2. 県全域に亘る災害支援ナースの養成 ・2021年度より全研修にWEB研修を導入した。前年度より2割減少であるが、遠方施設のWEB参加者は増加しており、WEB開催による一定の効果があった。 3. 災害支援ナースの登録・更新の啓発、推進 ・災害支援ナースの新規登録者43名であり、熊本地震直後と並ぶ登録者数を確保することができた。 4. 災害支援ナースの質向上のためのフォローアップ研修 1) フォローアップ研修 I (ハイブリッド) 11/11(1回開催) 参加者:48名 内容:「災害時における栄養士の役割と災害チームとの連携」 「災害時における歯科支援活動と災害チームとの連携」 2) フォローアップ研修 II (1回開催) 1/27 参加者:45名 内容:「防災気象情報の利用の仕方」[熊本地震の特徴]
III 災害看護の普及 1. 災害訓練等への参加 ・熊本県総合防災訓練 ・災害支援ナース派遣調整訓練 2. 災害時の管理者役割を実践的に学ぶ研修 災害看護管理者研修 講師:災害看護専門看護師 作川真悟氏 内容:「被災時における病院の初動体制について」 ・災害委員と協会支部との連携 ・地域で開催される災害関連の会議への参画	III 災害看護の普及 1. 災害訓練等への参加 災害支援ナース派遣調整訓練は、日本看護協会規定見直しのため本年度は中止となったが、人吉市総合防災訓練へ災害支援ナース3名の参加ができた。 2. 災害看護管理者研修(オンデマンド) 12/17(1回開催) 参加者:36名

令和4年度 熊本県看護研究発表会

日時 令和5年2月25日(土) 12:00～

場所 熊本城ホールシビックホール



前田樹海氏

令和5年2月25日土曜日に熊本城ホールシビックホールにおいて、令和4年度熊本県看護研究発表会を開催しました。今回の研究発表会は、3年ぶりの外部会場での対面開催であり、感染対策に留意しながら行いました。参加者数は、181名でした。総演題数は13題あり、12題の口演・示説は会場での発表、1題は集録による紙面発表でした。

アンケートでは、「研究発表内容が参考になった」「多くの研究発表を聞きたい」というご意見がありました。

また、特別講演は東京有明医療大学 教授 前田樹海氏に「臨床看護師に適した研究スタイルの提言」と題して、会場でご講演いただきました。参加者からは、「研究に対するネガティブなイメージからの脱却させるための提言があり、実践可能と思える内容でした。」「臨床での看護研究のあり方を考えるきっかけになった」「研究のハードルが下がり、気が楽になった」という感想をいただきました。

特別講演では、前田先生がQRコードを用いて質問をする機会を設けていただきましたので、参加者から多数の質問がありました。先生からは、研究者、マネジメント側、対象者にとってWin-Win-Winの院内研究のあり方についてご示唆をいただき、看護研究へ取り組みへの活力をいただく機会となりました。

文責 熊本県看護協会 教育部長 後藤寿美子



開催報告

熊日看護師就職支援ガイダンス

令和5年3月5日(日) ホテル日航熊本



「熊日看護師就職支援ガイダンス2024」が、熊本日日新聞社主催、熊本県看護協会共催で令和5年3月5日(日)にホテル日航熊本で開催されました。今回は県内の26病院が参加し、看護師等養成所卒業予定の学生92名と、転職・復職を希望している既卒者等30名の来場がありました。


熊本県看護協会ナースセンターの相談コーナーも開設し、既卒・就業中の方の相談が多く、9名の方が利用されました。育児中に看護学校に進学・就職し大変だったが、今では家族の後押しもあり仕事を頑張っている方、看護職として就職後に1度転職したが、新しい職場環境に悩んでいる方等が来られました。相談者は、自分の気持ちを話すことで気持ちの整理ができたと感じていました。

また、助産師を目指す高校生や、県外の看護学校に通う学生の親御さんの相談もありました。多くの方々に、看護職として熊本で働いていただけるよう支援したいと思います。

文責 ナースセンター 相談員 窪田由美子

熊本県看護研修センター内に 訪問看護総合支援センターを開設しました

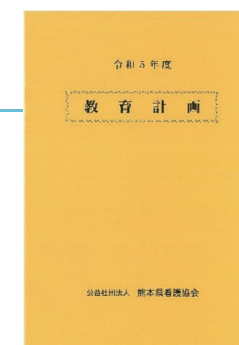
熊本県訪問看護総合支援センターの事業概要・実施体制

経営支援	人材確保	質の向上
1 事業所運営基盤整備支援 ・訪問看護に関する相談への対応 ・経営管理に関する現地支援の強化(アドバイザー派遣) ・介護支援専門員との連携促進	3 潜在看護師・プラチナナース等の就業・転職促進 ・再就業支援研修会 ・訪問看護への就業を目指す看護師からの相談対応 ・ナースセンターとの連携した個別マッチング等	6 教育・研修実施体制の組織化 ・訪問看護師養成研修 ・訪問看護管理者研修及び交流会 ・訪問看護スキルアップ研修 ・退院支援研修
2 訪問看護事業所の開設支援 ・新設開設時の相談対応 ・県及び市町村との情報交換 ・行政計画(保健医療計画等)策定への参画	4 人事交流支援 ・相互交流の好事例の収集・共有等 ・医療機関からの訪問看護体験実習	7 訪問看護に関する情報分析 ・訪問看護に関する情報収集と分析 ・質の向上に向けた協議の場の設置
 5 新卒看護師採用に向けた取り組み ・教育者・学生向けの訪問看護の周知 ・効果的な訪問看護実習実施のための支援 ・新卒訪問看護師対象入門研修	8 訪問看護利用促進に向けた周知 ・リーフレット配布等 ・県看護協会のホームページ掲載	訪問看護サービスの普及啓発と利用促進



令和5年度教育計画は お手元に届きましたか？

いよいよ令和5年度の研修会が始まります。研修受講システム **マナブル** に登録がまだの方は早めのご登録をお願いします。また、令和5年度の会費納入はお済みですか？ 入会手続き・会費納入が完了していなければ、会員価格で受講することができません。



研修受講システム
マナブルへアクセス



理事会開催報告

| 令和4年度第11回理事会

令和5年3月16日(木) 13:00～

熊本県看護研修センター 3階大研修室

協議事項

- 1) 公益社団法人熊本県看護協会定款の見直しについて
- 2) 理事報酬規程改正について
2. 令和5年度熊本県看護協会事業(案)について
3. 令和5年度熊本県看護協会予算(案)について
4. 熊本県看護協会会長表彰推薦(案)について
5. 令和5年度熊本県看護協会通常総会プログラム(案)について
6. 令和5年度熊本県看護協会職能別交流集会(案)について
7. 看護くまもと125号企画(案)について

| 令和5年度第1回理事会

令和5年4月20日(木) 14:00～

熊本県看護研修センター 3階大研修室

協議事項

1. 公益社団法人熊本県看護協会理事会運営における理事会の召集権者と職務権限の代行順序(案)について
2. 令和5年度重点事業・事業計画(案)について
3. 令和4年度熊本県看護協会事業報告(案)について
 - 1) 令和4年度事業報告(案)について
 - 2) 令和4年度理事会・支部長会報告(案)について
4. 令和5年度熊本県看護協会通常総会議長等推薦について
5. 「第15回熊本県医療・保健・福祉連携学会」での演題発表について
6. トルコ・シリア地震の寄付金の送付先について



いつも“看護”とともに。

1973年、社団法人日本看護協会から独立した当社は、
この半世紀、看護と社会の歴史とともに歩んできました。
これからも看護の専門出版社として、
ケアにかかわるすべての人びとのために、
時代に即した価値ある情報を届けてまいります。

株式会社日本看護協会出版会



特設サイト

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル4F TEL: 03-5778-5712 <https://www.jnapc.co.jp>

熊本県看護協会会館整備資金納入施設名簿

期日 令和5年2月1日～令和5年3月31日

施設名	件数	金額
菊池郡市医師会立病院	7	210,000
熊本機能病院	24	720,000
熊本赤十字病院	45	1,350,000
矢部広域病院	1	30,000
天草病院	3	90,000
人吉医療センター	21	630,000
熊本リハビリテーション病院	1	30,000
天草地域医療センター	12	360,000
合計	114	3,420,000

看護くまもと 第125号

発行日 令和5年5月17日(水)

発行者 本 尚美

編集者 事務局

発行所 公益社団法人 熊本県看護協会
熊本市東区東町3丁目10番39号

TEL 096-369-3203

FAX 096-369-3204

令和5年度 会員納入会員数

14,406名(令和5年5月11日現在)

表紙 銅ヶ滝(阿蘇ユネスコジオパーク)